2026.4.1

弓削商船高等専門学校

【準学士課程・専攻科課程共通】

◎校訓

みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活

◎教育方針

1．自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
2．身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造力のある人材の育成
3．日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【専攻科課程】

	◎教育目標	ディプロマ・ポリシー （DP：修了の認定に関する方針）	カリキュラム・ポリシー （CP：教育課程の編成及び実施に関する方針）	アドミッション・ポリシー （AP：入学者の受入れに関する方針）
海上輸送システム工学専攻	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成	海上輸送システム工学専攻は、本校が掲げる教育方針の下、海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身に付けた実践的な海事管理技術者を育成します。 そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規定に定める基準を満たした学生に修了を認定します。 （Ｄ１）商船学に関する幅広い知識・技能を修得し、海と陸の複合領域で活躍できる技術者となる。（専門基礎力） １－１：運航管理や海運実務、関連法規を体系的に修得し、専門的学修の基盤として運用できる。 １－２：海洋環境やエネルギー利用に関する基礎を修得し、自然環境と工学の関わりを理解して持続可能な海事システムを構想できる。 １－３：機関・制御・材料・情報処理などの工学知識を応用し、実践的課題を解決できる。 １－４：海事シミュレーションや数理的手法を活用し、交通流や運航管理の課題を分析できる。 （Ｄ２）海上輸送システムにおける基礎知識と技能に加え、専門分野の高度な知識と能力を修得し、複眼的な視点で問題を解決し、産業技術分野に応用できる技術者となる。（専門応用力） ２－１：海上輸送システムに関する高度な知識を修得し、実践に活用できる。 ２－２：複雑な課題に対して科学的・論理的に分析し、解決策を導き出すことができる。 ２－３：研究や実習を通じて培った知識・技術を応用し、持続可能な産業技術分野の発展に貢献できる。 ２－４：安全・環境・経済性などを統合的に捉え、多角的な観点から判断できる。 （Ｄ３）海事分野における専門英語を理解し、国際的な視野と倫理観に基づいて価値判断を行い、多様な人々と協働できる技術者となる。（コミュニケーション・協働力） ３－１：国際海事分野で必要となる専門英語を修得し、実務に活用できる。 ３－２：国際的な規範や文化の多様性を理解し、グローバルな視点で行動できる。 ３－３：専門的内容を的確に表現し、国内外の関係者と円滑に情報共有・協働できる。 ３－４：チーム内外で円滑な人間関係を築き、安全かつ効率的に業務を遂行できる。 （Ｄ４）船舶運航技術に関する知識・技能に加え、陸上からの安全管理や運航管理を含む幅広い視点を持ち、リスクに適切に対応できる技術者となる。（安全・管理対応力） ４－１：運航管理や航行安全の確保に必要な知識・技能を修得し、適切に活用できる。 ４－２：機器技術や物理現象を理解し、機関の安全かつ効率的な運用に応用できる。 ４－３：船舶管理を体系的に理解し、総合的に実践するとともに、新たな仕組みや解決策を提案できる。 ４－４：事故やトラブル発生時に状況を的確に判断し、適切な対応を講じることができる。	**＜教育課程の編成方針と教育内容＞** ディプロマ・ポリシーで示した能力を身に付けるために、海・船・港に関する知識と技術を総合的に学習し、世界で活躍できる海事技術者を育成します。具体的には、全国国立高専共通のモデルコアカリキュラム（MCC、MCC plus）をベースに、専門基礎科目と専門科目からなる教育課程（カリキュラム）を体系的に編成します。 （１）専門基礎科目 数理工学、環境化学概論、技術英語１、文書表現論、技術英語２、情報処理応用論、物理学特論 ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ１、Ｄ３ （２）専門科目（海上輸送システム工学） エネルギー変換学、高電圧工学、熱機関工学、コンピュータ機械設計、海事英語、材料学特論、船舶工学特論、海上交通工学特論、海事シミュレーション工学、海運経済特論、商船システム概論、船舶安全工学特論、海洋国際環境法規、機関システム工学、海上輸送工学 ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ１、Ｄ２、Ｄ３、Ｄ４ （３）専門科目（周辺技術等） 教育技術演習、短期インターンシップ、長期インターンシップ ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ３、Ｄ４ （４）専門科目（実験・実習・研究） 特別研究１、特別研究２、海事科学実験、海事科学演習、特別研究３ ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ２、Ｄ３、Ｄ４ カリキュラムは、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせて、ディプロマ・ポリシー及びMCCごとに体系的に編成します。主体的・継続的に学習する力を育成するため、学修単位の科目を導入し、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行います。 **＜教育の実施方法＞** （１）ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を学生が身に付けるために、教育課程の編成方針に基づいて配置された科目を修得させます。各科目の授業は、履修方法を説明し、シラバスに基づいて行います。 （２）授業のみならず、課題等により学生の自学学習を促すとともに、ルーブリック等を利用して学生の主体的学習を支援します。 （３）定期試験等を実施します。ただし、平素の成績によって評価できる授業科目については、試験の全部又は一部を行わないことがあります。 **＜学修成果の評価方法＞** 学業成績は、科目ごとにシラバスに示した評価方法に基づいて、100点法で評価します。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格・不合格又は認定・不認定の評価とすることがあります。なお、学業成績の評定は、次の区分によるものとします。 Ａ　80点～100点 Ｂ　70点～79点 Ｃ　60点～69点 Ｄ　59点以下	**＜求める学生像＞** ・工学的素養を身に付け海事関係分野で活躍したい人 ・海上輸送管理技術を身に付け社会で活躍したい人 ・商船学の基本的な知識・技能を身に付けている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人 **＜入学者選抜の基本方針＞** 入学者の選抜は、推薦による選抜と学力検査による選抜、社会人特別選抜の３つの方法で行います。 （１）推薦による選抜 本校へ入学する意志が堅く学業･人物共に優れ、在籍する学校長の推薦を受けた方を対象とし、推薦書、調査書及び面接の結果を総合して選抜します。 （２）学力検査による選抜 調査書、学力検査（専門科目（筆記）、数学（口頭試問））、英語（TOEICスコア）、面接の結果を総合して選抜します。 （３）社会人特別選抜 企業等に在籍する人で本校の募集要項に示す要件を満たす方を対象とし、推薦書、調査書及び面接の結果を総合して選抜します。

2026.4.1

弓削商船高等専門学校

【準学士課程・専攻科課程共通】

◎校訓
　　みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活

◎教育方針
　１．自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
　２．身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造力のある人材の育成
　３．日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【専攻科課程】

	◎教育目標	ディプロマ・ポリシー （DP：修了の認定に関する方針）	カリキュラム・ポリシー （CP：教育課程の編成及び実施に関する方針）	アドミッション・ポリシー （AP：入学者の受入れに関する方針）
生産システム工学専攻	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成	生産システム工学専攻は、本校が掲げる教育方針の下、情報・機械系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚を持つ実践的専門技術者を育成します。 そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規定に定める基準を満たした学生に修了を認定します。 （Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力（コミュニケーション力） １－１：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができる。 １－２：英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめる。 １－３：研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができる。 （Ｄ２）情報工学に関する基本的技術及び工学への応用技術（専門基礎力） ２－１：情報工学を活用した計測技術を使い実験データを収集することができる。 ２－２：収集したデータや情報に対し、数理的処理を用いて分析し専門工学での問題解決に繋げることができる。 （Ｄ３）情報工学と機械工学の融合分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する高度な知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を実践できる能力（専門応用力） ３－１：数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができる。 ３－２：多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができる。 ３－３：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる。 ３－４：基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができる。 （Ｄ４）知性と徳性の調和した人間性及び社会性・協調性（協働力） ４－１：幅広い知識を身に付け、地球的視点から問題を捉えることができる。 ４－２：異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができる。 ４－３：社会参加への意欲と関心を持つことができる。 ４－４：グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる。 （Ｄ５）社会に役立つ技術者としての倫理観（社会貢献力） ５－１：科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができる。 ５－２：実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができる。 （Ｄ６）知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に問題に取り組む能力（創造力） ６－１：好奇心と探究心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができる。 ６－２：得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解決の方法を企画、デザインすることができる。 ６－３：研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できる。	**＜教育課程の編成方針と教育内容＞** ディプロマ・ポリシーで示した能力を身に付けるために、全国国立高専共通のモデルコアカリキュラム（MCC、MCC plus）をベースに、専門基礎科目と専門科目からなる教育課程（カリキュラム）を体系的に編成します。 （１）専門基礎科目 文書表現論、技術英語１、技術英語２、物理学特論、環境化学概論、数理工学、情報処理応用論 ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ１、Ｄ２、Ｄ３、Ｄ４ （２）専門科目（情報工学・機械工学） 数値解析特論、コンピュータ機械設計、画像応用システム工学、人工知能特論、計算機制御システム、システム制御、ロボット工学特論、感性工学、ソフトウェア工学特論 ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ３ （３）専門科目（情報工学） データ構造、離散数学特論、信号処理論、電子回路応用、コンピュータネットワーク ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ３ （４）専門科目（機械工学） 弾塑性学、材料強度学、材料学特論、精密加工学、エネルギー変換学 ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ３ （５）専門科目（周辺技術等） 技術文献ゼミ、短期インターンシップ、長期インターンシップ、教育技術演習 ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ４ （６）専門科目（実験・実習・研究） 生産システム工学実験、生産システム工学演習、特別研究１、特別研究２、特別研究３ ディプロマ・ポリシーに示す能力：Ｄ２、Ｄ３、Ｄ４、Ｄ５、Ｄ６ カリキュラムは、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせて、ディプロマ・ポリシー及びMCCごとに体系的に編成します。主体的・継続的に学習する力を育成するため、学修単位の科目を導入し、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行います。 **＜教育の実施方法＞** （１）ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を学生が身に付けるために、教育課程の編成方針に基づいて配置された科目を修得させます。各科目の授業は、履修方法を説明し、シラバスに基づいて行います。 （２）授業のみならず、課題等により学生の自学学習を促すとともに、ルーブリック等を利用して学生の主体的学習を支援します。 （３）定期試験等を実施します。ただし、平素の成績によって評価できる授業科目については、試験の全部又は一部を行わないことがあります。 **＜学修成果の評価方法＞** 学業成績は、科目ごとにシラバスに示した評価方法に基づいて、100点法で評価します。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格・不合格又は認定・不認定の評価とすることがあります。なお、学業成績の評定は、次の区分によるものとします。 Ａ　80点～100点 Ｂ　70点～79点 Ｃ　60点～69点 Ｄ　59点以下	**＜求める学生像＞** ・手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人 ・コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人 ・工学の基本的な知識・技能を身に付けている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ち、いろいろな人と協力し合って行動できる、根気とチームワーク力のある人 ・社会の役に立ちたいという意識を持っている人 **＜入学者選抜の基本方針＞** 入学者の選抜は、推薦による選抜と学力検査による選抜、社会人特別選抜の３つの方法で行います。 （１）推薦による選抜 本校へ入学する意志が堅く学業･人物共に優れ、在籍する学校長の推薦を受けた方を対象とし、推薦書、調査書及び面接の結果を総合して選抜します。 （２）学力検査による選抜 調査書、学力検査（専門科目（筆記）、数学（口頭試問））、英語（TOEICスコア）、面接の結果を総合して選抜します。 （３）社会人特別選抜 企業等に在籍する人で本校の募集要項に示す要件を満たす方を対象とし、推薦書、調査書及び面接の結果を総合して選抜します。